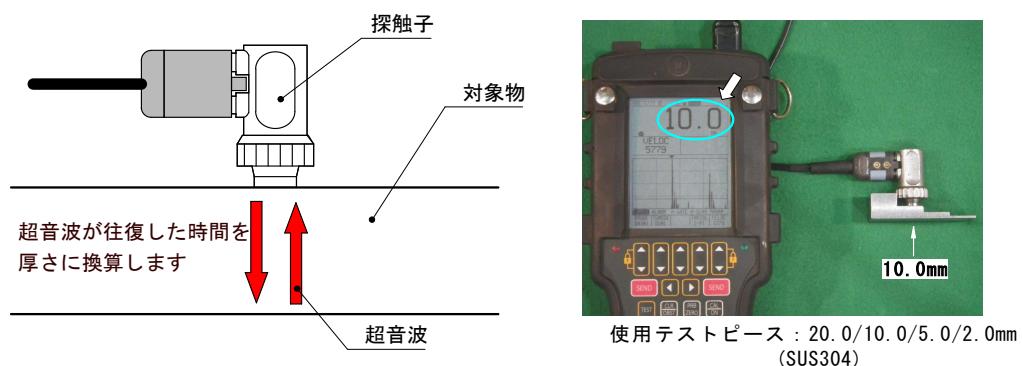


超音波厚さ測定(Ultrasonic Thickness Measurment)

概要

基本的には超音波探傷検査と同様ですが、こちらは厚さ測定に特化した検査手法です。超音波厚さ測定は、超音波の反射する性質を利用し、探触子と呼ばれるセンサーから発信した超音波が、どれくらいの時間で返ってくるのかを計測し、その時間をもとに対象物の厚さを算出します。また、対象物を破壊せず容易に測定することができます。



主な特徴

- ノギスやマイクロメーター等で測定できない部位に、対象物を破壊することなく残存肉厚を知ることができます。
- 配管や容器などの厚さを定期的に測定する事で、経年による減肉の傾向を知る事ができます。
- 内面減肉の進行が予想される箇所では、測定ピッチを狭くすることで、減肉の分布状況を確認できます。
- 超音波の音速を調整することで、様々な材料の厚さを測定できます。

検査仕様

鉄・ステンレス・アルミニウムなどの金属をはじめ、樹脂やガラス等で製作された配管や容器など様々な対象物の厚さを調べることができます、各種プラント設備の保守検査に欠かせない手法です。



吸出管測定状況



ポンプケーシング測定状況

装置

G E インスペクション・テクノロジーズ・ジャパン社製：クラウトクレーマー DMS 2
OLYMPUS社製：37DLPLUS, 45MG